

第2学年音楽科指導案

題材名 箏の様々な奏法を生かして表現を工夫しよう
教材名 「さくらさくら」(日本古謡)

〇〇立〇〇中学校
2年〇組 〇名
授業者 〇〇 〇〇

1. 題材の目標

- (1) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽を作るために必要な音階(平調子)や箏の様々な奏法の特徴などについて理解し、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
(知識及び技能)
- (2) 平調子や様々な奏法の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自分のイメージにふさわしい創作表現を創意工夫する。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。
(学びに向かう力、人間性等)

2. 学習指導要領との関連および〔共通事項〕

第2学年 A 表現 (3) 創作

- ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながらまとまりのある創作表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージに関わらせて理解すること。
(ア) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴
(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
- ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

〔共通事項〕

音色、旋律

3. 指導にあたって

題材・教材観

1 学期には雅楽の鑑賞で合奏楽器としての箏の響きを学習した。それにあわせて既習曲である「さくらさくら」のもつ平調子、日本の音階を理解し生かしながら、1 年時に鑑賞した「六段の調」に出てきた奏法などを使って、既習曲の「さくらさくら」に8 拍分の前奏を創作する。箏の様々な奏法と「さくらさくら」のもつ平調子の響きのイメージにあうように、ペアワークや発表会などで意見交流しながら創意工夫し、オリジナル作品を創作することで主体的・協働的な活動となるよう指導したい。

生徒観

※省略

指導観

これまで表現活動では素直にアドバイスを受け止め練習することで、自分たちのスキルの上達を実感しながら合唱を完成させることを身をもって体験した。1年時には日頃自分たちが何気なく使っている「言葉」を活用した創作を行った。設定した場面に擬音語、オノマトペを使い音楽的要素を取り入れて作品を完成させた。到達したいイメージやテーマにどのようにしたら近づけるかを言葉の取り合わせや強弱、反復を取り入れて行い、また表現の方法として一人で、全員で、などさまざまな音楽的効果を活用した創作活動となった。今回の学習活動では箏の平調子から感じるイメージや既習の鑑賞から知覚感受したことを生かし、趣向をこらした創作活動となるよう指導支援したい。実際に考えたことを演奏し、試行を繰り返すことで新たな知識や技能が習得される。このような活動を関わり合わせることで相互に主体的な活動となるよう工夫し、表現活動の達成感やよろこびと、日本古来の音楽や箏のもつ響きにふれることで伝統文化への興味や理解が深めることができるような学習になるように指導していきたい。

4. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音素材（平調子や箏の色々な奏法で表される音色）の特徴について表現したいイメージと関わらせて理解している。（知識） 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け創作で表している。（技能）	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら知覚したことと感受したことのかかわりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのようにして表すかについて思いや意図をもっている。	箏の奏法や音色に関心を持ち音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

5. 単元の判断基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	・平調子のもつ響きや様々な奏法の特徴を理解し創作に生かしている。（知識） ・「表現したいこと」と「創作したいこと」に意図や根拠を持ち、それらの関連について明確に説明できる。（知識） ・学習で知り得た箏の奏法を複数使って創作している。（技能）	平調子や旋律や箏の様々な奏法表現したいイメージとの関連をどのような意図や根拠を持って創作表現を工夫したのかを明瞭に示すことができる。	・思いや根拠を持って作品創作に主体的に取り組んでいる。 ・自作品のみならずペアの作品においても、よりよくなるよう趣向をこらしたり、調整を図れたりしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
C	音とイメージが結びつかない生徒は4音くらい音を並べてみて、創作の手がかりを示し、創作活動へと結び付ける。	イメージがつきにくい、イメージがわからない場合は、画像や動画の中から表現したいものを見つけ、具体的に創作していけるように促す。	ペアとの創作の考案時にペア生徒の作品や他作品を参考に創作をすすめるよう促す。

A:十分満足できる状況の見極め

C:努力を要すると判断されそうな生徒への手立て

6. 指導計画および評価計画

	◇めあて ○学習内容 ・学習活動	共通事項	知・技	思・判・表	態
1	◇箏の基本的な奏法を確認しよう	音色	ワークシート		行動観察
	○1年時の復習 ・箏の基本的知識の復習 ・平調子の理解と演奏 ・「さくらさくら」の演奏				
2 本時	◇「さくらさくら」の前奏を平調子を使って創作しよう ○「さくらさくら」のオリジナルの前奏を考えよう ・創作の範奏を聴く ・「さくらさくら」の前奏のイメージを模索する（画像や映像） ・8拍分の創作活動①	音色	ワークシート	ワークシート	ワークシート
3	◇箏の奏法を使って創作しよう ○「さくらさくら」の前奏に様々な奏法を使ってみよう ・「六段の調」による様々な奏法の確認 ・創作したいイメージをもとに音の並べ方や奏法を使って創意工夫する(創作活動②) ・前奏と「さくらさくら」をつなげて演奏する	音色	ワークシート	ワークシート	ワークシート
4	◇創意工夫して創作作品を完成させよう ○表現を工夫してオリジナル版「さくらさくら」を完成披露しよう ・吟味して作品を完成させよう ・完成した作品を披露する(発表会) ・学習の振り返り・まとめ		演奏発表 ワークシート	ワークシート	行動観察 ワークシート

7. 本時の目標 (2/4 時間目)

「さくらさくら」の前奏を平調子を使って創作しよう

8. 本時の展開 (2/4 時間)

	□めあて ○学習内容 ・学習活動	■教師の関わり ※支援の必要な生徒への手立て・声かけ	単元の評価規準		
			知・技	思・判・表	態
出 合 う 15	○前時の復習 ・基本的奏法の確認。 ・「さくらさくら」旋律の演奏。 ○創作準備 ・範奏を聴く。	■「さくらさくら」演奏 弾き方をおさらいする。範奏。 そのあと全員で弾く。 ■創作見本の範奏	演奏		行動観察
向 き 合 う 15	「さくらさくら」に前奏をつけてオリジナル「さくらさくら」を 創作しよう! ・創作する前奏のイメージを考える ○8拍分の創作に考案・着手する。 ・イメージにある音の並び方を 弾きながら考える。				
つ な げ る 10	○イメージを膨らませる ・範奏を聴く⇒イメージと音の表現 や創作の意図を知る。 ・音のイメージと音楽の要素 (音の高さ、長さなど)をどう結び つけて使うのかを考えて創作 (音並べ)していく。	※イメージや具体的なもの(花、 花びら、光、風など)の表現を どんな音にするのかをもう一度 範奏から具体的に検証して手 がかりにしていく ⇒音の並べ方などに意図を もって創作できるよう導く。	ワークシート	ワークシート	
振 り 返 る 10	○活動のまとめ ・今日の創作ベースをワークシートに 記入する。 ・8拍分の創作を演奏してみる。 ・ペアで演奏しあって交流する。 ・今日の学習の成果と、次時完成 イメージをワークシートに記入する。	■本日の活動の成果を伝え、ねら いにどれだけ生徒たちが向き 合い検討していたのかを評価 することで、自分たちの活動と 次時へのねらいを焦点化する。	ワークシート		ワークシート